

様式第7号（第21条関係）

令和5年6月25日

佐賀県県民協働課長 様

住 所 佐賀市八戸二丁目1番27-2号
団 体 名 認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク
代表者職・氏名 理事長 井 上 龍 夫
電 話 番 号 0952-20-2062

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による
寄附金活用実績報告書

令和4年度において、当団体に交付された佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して別紙のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱第21条第1項の規定により提出します。

令和4年度 佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金活用実績報告書

- 1 団 体 名 : 認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク
- 2 事業実施期間 : 令和4年4月1日 から 令和5年3月31日
- 3 事業の背景 (※事業計画書から転記)

■事業の実施により実現したい佐賀県の地域像

研究費を助成することで、研究が進展し、1型糖尿病が根絶され、患者（全国12万人、佐賀県800人）と家族（全国48万人、佐賀県3200人）のすべての課題（日々の副作用への対処、合併症の進行、高額な医療費負担、患者の母親の罪悪・絶望感等）が解決されます。この研究費助成を契機に研究者と患者・家族との接点を創ることで、研究者のモチベーションを向上させ、より一層の研究進化がもたらされます。

役職員が遺産寄付対策の意義と手法を理解したうえでファンレイジングができるようになり、研究費助成財源の増加に寄与します。

また、創立27年（佐賀市に本部を移転し22年）を経過し、その間に培ったノウハウを本部のある佐賀県のCSOに還元し、自発的な市民社会の構築に寄与します。

バックオフィス業務の一部を就労継続支援A型事業所へ委託することで、当法人の活動継続及び佐賀県内の障がい者の方々の社会的自立にも寄与します。

1型糖尿病根絶の歴史を佐賀から創り上げるため、本部事務局を佐賀市で継続・強化（佐賀県民の雇用、佐賀県内の顧問税理士・顧問社会保険労務士の選任等）します。

お礼の品の送付を通して、佐賀県の女性の活躍や地場産業の振興にも寄与します。

4 事業の成果

①県民の便益にどのようにつながったのか

・2025年のバイオ人工膵島移植（医療用ブタ膵島を人に移植する「膵島補充療法」）実現に向けて準備が進んでいます。この療法が標準化されれば、患者は日帰り治療を受けられ毎日の注射等によるインスリン補充から解放されます。この他にも1型糖尿病根絶に向けた様々な研究が続いており、患者・家族の”絶望”を”希望”に変えることに寄与しています。

・バックオフィス業務の一部を就労継続支援A型事業所へ委託することで、佐賀県内の障がい者の方々の社会的自立にも寄与しています。

・佐賀市にある本部事務局を強化（佐賀県民の雇用増）し、1型糖尿病分野では「世界に誇れる佐賀づくり」に寄与しています。

・お礼の品の送付を通して、佐賀県の女性の活躍や地場産業の振興にも寄与しています。

②佐賀から広がった社会像（該当する活動のみ）

1型糖尿病根絶（＝予防＋根治＋治療）に向けて研究は進化しており、佐賀から世界基準を創り出すことに貢献しています。

5 寄 附 金 活 用 事 業 実 績 ： （別記1）

6 次 年 度 繰 越 額 活 用 見 込 み ： （別記2）

7 寄 附 金 活 用 額 ： （別記3）

(別記1) 寄附金活用事業実績

○寄附金を活用して行った事業 (GCFを行った場合は、GCF名とその内容を記載)

事業名	具体的な事業内容 ①目的②対象者③実施内容	①実施日時 ②実施場所	事業費の 支出金額 [単位: 円]	うち寄附金 活用額 [単位: 円]
① 1型糖尿病根絶に向けた研究費助成 GCF【不治の病から子どもたちを守る「ワクチン開発」をご支援ください】	①1型糖尿病を引き起こすウイルスを見つけ出してワクチンを開発し、1型糖尿病の発症予防を目指す。 ②全国の1型糖尿病患者・家族 ③佐賀大学医学部への研究費助成	①6月24日 ②佐賀市	17,000,000	17,000,000
① 1型糖尿病根絶に向けた研究費助成	①FreeStyleリブレの最新型(第3世代ソフト搭載)の性能評価を行い、患者に信頼できる情報を提供するとともに必要に応じてメーカーにさらなる品質向上を働きかける。 ②全国の1型糖尿病患者・家族 ③国立病院機構京都医療センターへの研究費助成	①6月27日、11月21日 ②京都市	1,000,000	500,000
① 1型糖尿病根絶に向けた研究費助成 GCF【“不治の病”で苦しむ子どもたちを「日帰り移植手術」で救いたい】	①1型糖尿病の根治に最も近いといわれる「バイオ人工膵島移植」実現を目指す。 ②全国の1型糖尿病患者・家族 ③国立国際医療研究センター及び神戸大学大学院医学研究科への研究費助成	①1月13日 ②東京都、神戸市	23,500,000	23,500,000
① 1型糖尿病根絶に向けた研究費助成 GCF【「移植ではない治療法」を確立し、難病の子どもたちを救いたい 次のステージへ】	①「移植ではない治療法」の確立を目指す。 ②全国の1型糖尿病患者・家族 ③群馬大学生体調節研究所への研究費助成	①3月3日 ②前橋市	24,000,000	24,000,000
②遺産寄付の促進	① 1型糖尿病根絶に向けた研究費助成をさらに加速する。 ②全国の支援者 ③専門家の助言に基づく広報、雑誌掲載	①4月-12月 ②佐賀市ほか	2,742,490	1,500,000
③中間支援業務	①県内CSO(市民社会組織)の交流機会の創出 ②県内のCSO関係者及び行政職員 ③「佐賀の未来につながるCSO交流会」を5団体で共催	①11月22日 ②佐賀市	100,000	100,000
④事業運営のための業務委託	①当法人の活動継続及び県内障害者の就労支援 ②就労継続支援A型事業所職員 ③バックオフィス業務の一部(発送業務等)を当該事業所へ委託	①4月-12月 ②佐賀市	439,414	400,000

⑤本部事務局（佐賀市）職員人件費	①本部機能強化と佐賀県民の雇用創出 ②佐賀県民 ③本部事務所（佐賀市）に勤務する職員（佐賀県民）の人件費	①4月-12月 ②佐賀市	3,108,474	2,390,696
⑥事務局運営費	①本部機能の強化 ②佐賀県民 ③本部事務所（佐賀市）の賃料、顧問税理士・顧問社労士への報酬等	①4月-12月 ②佐賀市、鹿島市、吉野ヶ里町	2,001,360	1,100,000
⑦ふるさと納税募集経費	①ふるさと納税寄付金の獲得、女性の活躍及び地場産業の振興 ②全国の寄付者及び県内の返礼品事業者 ③返礼品の品代、送料及び広報費等	①4月-12月 ②佐賀市ほか県内各地	9,509,304	9,509,304
計			83,401,042	80,000,000

(別記2) 次年度繰越活用見込み

○次年度に繰り越した寄附金の活用見込み<令和5年6月16日実施済>

事業名	具体的な事業内容 (予定) ①目的②対象者③実施内容	①実施日時 ②実施場所 (見込み)	事業費の 支出見込み額 [単位:円]	うち寄附金 活用見込み額 [単位:円]
① 1型糖尿病根絶に向けた研究費助成	①1型糖尿病を引き起こすウイルスを見つけ出してワクチンを開発し、1型糖尿病の発症予防を目指す。 ②全国の1型糖尿病患者・家族 ③佐賀大学医学部への研究費助成	①令和5年6月16日 ②佐賀市	20,000,000	20,000,000
計			20,000,000	20,000,000

(別記3) 寄附金活用額

【収入】佐賀県ふるさと寄附金収入額 … ① (=A+B)		100,000,000
(内訳)	本年度の佐賀県ふるさと寄附金収入額 … A	100,000,000
	本年度交付を受けた佐賀県ふるさと寄附金分	96,111,867
	前年度控除額(県事務経費)還付分	3,888,133
	前年度収入済の佐賀県ふるさと寄附金繰越額 … B	0

【支出】佐賀県ふるさと寄附金活用額… ② (=a+b)		80,000,000
(内訳)	事業に活用した寄附金額 … a	70,490,696
	ふるさと納税の募集に要した費用の額 … b	9,509,304
	返礼品等の調達に係る費用	5,932,936
	返礼品等の送付に係る費用	1,416,686
	広報に係る費用	2,159,682
	事務に係る費用	0

佐賀県ふるさと寄附金の次年度繰越額 … ③ (=①-②)	20,000,000
-------------------------------------	-------------------

■直近の収支報告書掲載箇所(ホームページURL等)

<https://japan-iddm.net/wp-content/uploads/disclosure/2021houkoku.pdf>